

かけだ詩⑨

そだちと臨床研究会

川畑 隆  
かわばた たかし

でも でも

喧嘩したっていいんだよ  
仲良くできないときだってあるもんね  
だってあなたはとつても腹が立ったんだから

でも  
喧嘩しちゃダメ 仲良くしなくっちゃ  
って言われるよね

でも  
喧嘩しちゃうよね しょうがないんじゃない？  
だって嫌なときは嫌って言えってねえ

いろんなこと言われるから  
どうしたらいいかわかんないときってあるよね  
ホントたいへん

仮説

子どものことってわからない  
もちろん  
おとなのことわからないけど  
子どものことってわからない

でもわかったように言う人はけっこういる  
私もわかったように言っている  
ただし、わかったと言っているのではなく  
そのように考えてみたらどうかと言っているだけだ

真実がわかるのは神様だけだとして  
真実がわからなかったらお手上げかという  
そんなことはない  
もしかしてこうじゃないだろうかと考えて  
そのようにやってみて少しでもいい方向に進みだしたら  
その考えは役に立ったことになる

役に立ったことを積み重ねてみる段階で  
子どものことがわかったと言ってしまうのは  
そしてそれを聴いた人が信じてしまうのは  
(尚早か早尚かいつも迷うけれど) 時期尚早

心配するのは  
「わかった」と聞いたことに疑いをもたず

自分自身で考えることがおろそかになること  
「わかった」ことを一方的に子どもに当てはめ  
役に立ったかどうかの確かめがおろそかになること

「私の言ったことは信じないでくださいね」  
子どもや家族のことについて話したあとに  
私がよく付け加える言葉  
「信じるように話しておいて信じるなどは如何か  
その戸惑いと怒りの表情が納得に変わるまで  
伝えたい「わからない」という前提の大切さ

### 身ぶり手ぶり

身ぶり手ぶりが多い  
自分には見えなかったが  
気になるくらい  
落ち着きがなかったらしい  
何に落ち着きがないんだろう  
話が伝わらなかつたらと  
心配なんだろうか  
それでどうこうなんだよと  
言葉に任せられない

言葉に込められていない  
言葉が言ってるんじゃないんだよ  
私が言ってるんだ

踊ってるようだった  
それでもかまわないけどね  
いっそのこと  
踊ってやるか  
踊ったら踊りになるじゃないか  
そうしたいわけじゃなくて  
そうだよ 私や  
落ち着きがないんだよ

### 目的

ソーシャルワークも  
心理臨床も  
児童指導も  
虐待防止活動も  
そして  
政治も  
経済も

法律も

目的ではなく  
手段

目的は 人が  
今より厚い幸せを  
少しでもいいから  
手に入れること

手段が  
目的にならないように  
目的を  
忘れないように

### コンサルタント

「言いました」  
なんてとんでもない  
「言わせていただきました」  
です

「思いました」  
も駄目でしょうか？

「思わせていただきました」  
に越したことはないでしょうね

「頑張っただけ結果が出せてよかったです」  
それは言ってもかまいませんが  
「支えてくださった方々のおかげです」  
これを前面に押し出してくださいよ

起きたことの丁寧な説明  
はもちろんなこと  
「子どもたちの心のケア」  
には必ず言及してくださいね

「しつかりと」は使われすぎですが  
決意を伝える言葉はほかに浮かびません  
謙虚でないのは隠しても出てしまいますが  
せめて上から目線の言葉は避けてください  
いいですか  
わかりましたね

固定観念

弱い人がいてもいい  
強い人がいるように  
でも人にもつと弱くとは言わない  
もつと強くとは言うけれど  
強い人がいてよいほどには  
弱い人にはあまり  
いてほしくないんだらうか

強い人は放つとけるけど  
弱い人は守らなきゃならない  
面倒だから  
あまりいてほしくないんだらうか  
自分一人のなかにも  
強いところと弱いところがある  
やっぱり弱いところは面倒なのか

強いところは  
弱いところの後を押してくれる  
たしかに足し算の頼もしい助っ人  
でも弱いところは  
強いところを引き止めてくれる  
引き算の目立たないつかい棒  
面倒見のよさはかわらない  
強いところと弱いところ

強い人と弱い人  
どちらが強くてどちらが弱いんだらう  
これは簡単なことじゃない  
強いとか弱いという言葉は  
この際  
捨てたほうがいいのかもしれない

教訓

奈良公園で  
鹿にせんべいをやろうとしたら  
ベビーカーの長女が  
せんべいを指さして泣き出した  
あたしが食べるのおー

夕食で  
カミカミしながら寝入る次女  
頬つぺたの膨れた寝顔から  
薄目が開いて再びスイツチが入り  
またカミカミが始まる

十津川村の吊り橋で  
新妻は渡り切って新夫（おっと）を待つ  
新夫は足が凍りついて座り込んだ

察知した新妻が駆けつけ手を差し伸べる  
新夫はこの人について行こうと思った

人はそれぞれの事情を抱えている  
また人はありのままに生きるのが基本だ  
そして人は究極に至って真実に迫ることができる

## 夕方

一日は夕方から始まったのだそうだ  
暗闇を準備する段階から仕掛けは始まり  
夜のうちにエネルギーをためこむ  
陽に照らし出されたステージでのショータイム  
そして演じ終えた人々は帰路に着く

一日の終わりと始まりを繋ぐ夕方  
目立たぬ裏方として  
人々を迎え入れ そして送り出す  
そうか 夕方の仕掛けとしては  
夜はもう作戦のうちなのだ

夕方のあの侘しさと寂しさ  
とくに秋から冬にかけてのセピア色  
お酒のおかけかもしれないが

景色が暗闇にかわると腹がすわる

いや そうじゃない  
灯りを点けるから立ち直れるのだ  
そして 目を閉じて眠ることによって  
怖ろしさを封じ込めるのだ

昨日を生きた安堵と今日の不確実さへの不安  
夕方はその両方をもろに持つてくる  
朝には二度と飲むまいと思つたお酒が  
夕方には欲しくてたまらなくなるはずだ

一日は前日の夕暮れから始まった…堀井令以知著『ことばの由来』  
二〇〇五 岩波新書 一一三頁